

シンポジウム報告

Workshop on the Dynamics and Mass Budget of Arctic Glaciers & the IASC Network on Arctic Glaciology Annual Meeting

紺屋 恵子¹

1. はじめに

2012年1月10~12日にかけて、(エクスカーションも含めて)3日間の日程で IASC (International Arctic Science Committee) -NAG (Network on Arctic Glaciology) Annual Meeting がポーランド南部の Zieleniec (ゲルニェツ) で開催された。ワークショップは毎年開かれており、昨年はアメリカ、一昨年はオーストリアと、1年交代でヨーロッパとアメリカで開催されている。ワークショップの web サイトは新しいサイト (<http://www.iasc-nag.org/activities.html>) に変更されたため過去の情報は見つけにくくなっている。今回のワークショップでは、現在までのところ、abstract が参加者に配布されたのみだが、extended abstract 集がつくられる予定もある。

2. 発表およびトピックス

このワークショップの目的は、北極域の山岳氷河、グリーンランド氷床の氷河の流動、質量収支などについて新しい観測やモデリングの結果を議論すること、既存のインフラやロジスティックスを使って効率よいフィールドワークを計画、実行すること、将来のプロジェクト、共同研究のためのアイデアを構築することである。

2012年の参加者は、ポーランド各地の大学、研究所などが多かったが、ヨーロッパを中心に、アメリカ、カナダからも参加者がおり、アジアではネパール、日本から参加した。分野も、雪氷だけでなく、海洋、気象分野から、ポーランドなどヨーロッパを中心に、学生など多数の参加者がいた。

3. 印象に残った発表

ポーランドの Schäfer らは、Svalbard のアイスキュープの氷河底の流動パターンを、モデルを使い、表面流速から計算した結果を発表した。ヨーロッパでは Full-Stokes の流動モデルの話聞くことが多い。この研究は彼女の博士論文だそうで、ノルウェーなど多くの共同研究者がいるようであった。

IASC-NAG の次回以降の取りまとめ役になった C. H. Reijmer は、Svalbard. での5年間の質量収支と流動の観測結果を発表した。この研究は彼女の学生が担当しているとのことだったが、結果は、Mass balance モデルと観測の結果と整合し、流動と質量収支に関係が見えそうとのことであった。

カナダ北極域で観測研究している Martin Sharp らのチームは、カナダ tide-water ice cap について、衛星から得られた流動速度、流動場をモデルで計算した結果を発表した。氷河表面水路と流動場の相関があるとのことだった。このチームからは毎年数名の参加者がおり、多くの研究成果を発表している。

このほかカービング氷河の研究がいくつかあった。ビデオやインターバルカメラを利用して長期にモニタリングする方法が紹介された。この方法はグリーンランドなど多くの場所で使われている。

またグリーンランドでは、網羅的にデータを取得するために、グリーンランド縁辺にネットワークを張り、長期モニタリングできる水圧センサーなどを配置、mass balance などモニタリングしている。

¹ 海洋研究開発機構

4. Business meeting

IASC-NAG のヨーロッパ支部のとりまとめを誰が担当するか会議が開かれた。これまではデンマークの Andreas Ahlstrøm が担当していた。会議の場で何人かが指名されたが、誰も引き受けたがらなかったため持ち越しになった。その後、オランダ Utrecht University の C. H. Reijmer が引き受けたことがメーリングリスト等でアナウンスされた。また、次回の開催地と LOC が発表された。

5. おわりに

毎年開かれているワークショップだが、会場近くの人以外はあまり参加しない傾向にあり、特にア

メリカでの開催では参加者が減る傾向にあることが問題になっていた。そのため、来年はつづけてヨーロッパ（オーストリア西部）にて 2 月 24-28 日の開催となることが決まった。私はこの 3 年間参加しているが、日本人はあまり多くはない。日本人にとって参加しにくい時期に開催されることも問題となるが、日本で北極関連の研究が多くなるなかで、よい情報交換の機会となると思う。

また、ポーランドでは、クラクフで来年の ASSW (Arctic Science Summit Week) が 4/14 ~20 に開催されることが決まっている。(http://www.iasc.info/index.php/home/assw/upcoming)

(2012 年 6 月 4 日受付)